

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

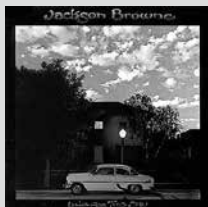
文=ジヨージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第42回

ジャクソン・ブラウン 「ピフォー・ザ・デリュージ」

現代にも胸に響く70年代の社会派の一曲



Jackson Browne
"Late For The Sky"
Asylum 07E1017 [1974]
Elektra [EU] ©7559.60323

とも、さまざまなことを考えさせられる。最初に、この曲のタイトルについて話しておこう。「ピフォー・ザ・デリュージ」は、アンドレ・キヤット監督が手がけた54年のフランス映画のタイトル。5人の子供が核戦争を懸念して、のどかな島に逃げるために罪を犯してまで金を貯めようとする話だ。聖書に出てくる 'deluge' という言葉は「大洪水」という意味だが、たくさんの事象やモノがいつべんに現われることをいう。若者が大人になっていくと、悩みごとが増える。クレームの手紙がたくさん来ることもある。こんなときも 'deluge' という。

Some of them were dreamers

And some of them were fools

Who were making plans

And thinking of the future

この曲はジャクソンを含めた、自分と自分の周りにいる仲間のことを歌っている。

▲夢を見ている人もいた。愚かな人もいた。みんな未来のことはかり考えて、計画を練っている。皆、一人よがりだったことを省みているのだろう。

のジャカラндаまで咲いている。
この地球がどうなるのかを、俺は若い頃と同じように、もう一度考えるようになった。そこでこの曲を思い出した。新たに重要性を感じるようになったんだ。「ピフォー・ザ・デリュージ」は、74年にリリースされたジャクソン・ブラウンのアルバム『Late For The Sky』の最後の曲。『黙示録』のことを歌っているだけに、聴いたあ

最近、福島の原子力発電所問題が、どこか遠くからやってきた嵐のように頭の片隅に居座り続けている。アフリカとアジアでは、中国人が精力剤の薬を作るために、サイを殺している。サイの角を粉にして売っているのだが、実際にはまったく効果がないそうだ。日本では温暖化のおかげで、今まであまり見なかった植物をよく見かけられるようになった。東京の代官山では南米原産

With energy of the innocent

They were gathering the tools

They would need to make their

Journey back to nature

▲無邪気なエネルギーをよりどころに、彼らは道具を集めていた。彼らには、自然に戻る旅に出かけるために必要だったんだろう。この 'tools' は、大工が使う工具のことだけでなく、生きていくために必要な知識のことも指している。70年代は自然と共に生きたいと、たくさんの人たちが思っていた時代。ここでは、そのような夢を見ている人々のことを歌っている。自然に戻る旅にでかけるの部分は、先の映画のどかな島に逃げるに意味をかけているのだろう。

While the sand

Slipped through the opening

And their hands

Reached for the golden ring

▲砂時計の砂が入り口をくぐり抜けている間、彼らは黄金の指輪を手に入れようと

してはかりいた。砂時計の砂と同じように、人生の残っている時間は次第に減っていく。その間、蓄財に勤しみ欲深く生きている。愚かな人々の 'journey' には歌っている。また、映画の「罪を犯してまで金を貯めようとする」にも意味をかけているのだと思う。

And with their hearts

They turned to each other's heart

For refuge

In the troubled years that came

Before the deluge

▲そして彼らは、お互いの心の中に避難場所を探した。大洪水が来る前の、苦難続きのこの数年間に。ここで、この曲のタイトル 'before the deluge' が出づる。破滅が近づいてくるようだ。しかし、夢見る人々も、愚かな人々も、自ら省みることを怠り現実逃避しては、というようにこのことを表現しているのだろう。

Some of them knew pleasure

And some of them knew pain

And for some of them
It was only the moment that mattered
And on the brave
And crazy wings of youth
They went flying around in the rain
And their feathers once so fine
Grew torn and tattered

▲喜びを知っている人もいた。苦しみを知っている人もいた。そしてなかには刹那的に生きる人もいた。勇敢で狂気じみた翼を持った若い彼らは、雨の中を飛んでいた。そしてあるとき、見事だった羽は破れ、ポロポロなってしまった。血気盛んな若者たちもいた。しかし、破滅の前にした苦難のとき、彼らの夢は破れてしまう。

And in the end they traded

Their tired wings

For the resignation that living brings

直訳すると、▲彼らは疲れた翼を交換した。生きていくためには妥協が必要だから。これは言うなれば、夢を持った生き方を諦めてしまったということだ。

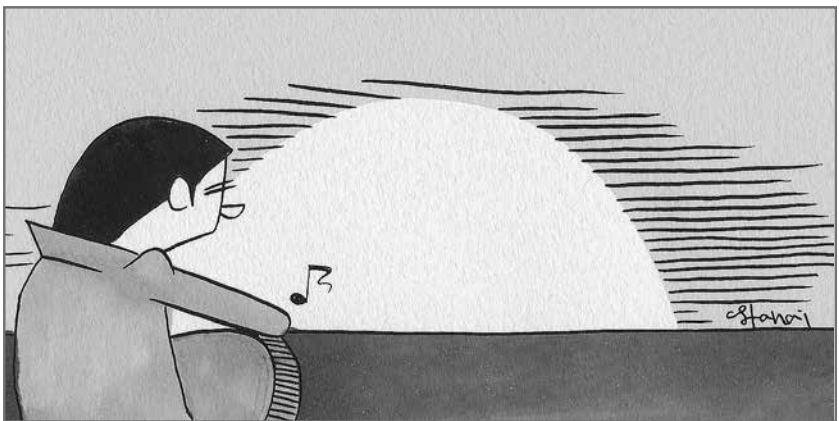
And exchanged love's bright
And fragile glow
For the glitter and the rouge

《そして、明るくて壊れやすい愛の輝きを、派手だが価値のないものに交換した。つまり、生きていくために、正しい生き方や愛の貫きを妥協してしまふことを歌っている。

And in the moment they were swept
Before the deluge

《そしてその瞬間、彼らは大洪水に流された。》。この 'before the deluge' は、1回目とはちよつと意味が違う。この 'before' は大洪水の前ではなく、大洪水に流されてしまふという意味で使っている。理想主義者や金満家、夢に破れ妥協した人生を選んだ若者たち、それらが皆、気づいたから既に流されてしまつていたのだ。

Now let the music
Keep our spirits high
And let the buildings



Keep our children dry

《さあ、音楽に僕らを元気づけてもらおう。そして建物に、僕らの子供たちを雨から守ってもらおう。》。この 'buildings' は大きな建築物だけでなく、小屋でもいい。建物が、雨だけでなく、いろんなことから子供たちを守り育つようにしてくれるという意味だ。このコーラス部分では、大洪水の後に生き残つた限られた人々の夢を語っているんだ。

Let creation reveal it's secrets
By and by, by and by
When the light that's lost within us
Reaches the sky

《天地創造の秘密を解明してやろう。いずれ、いつか。いずれ、いつか。僕らの中で失われた光が空に届くそのときに。》。地球がなくなり、また新しくできたときに、今まで理解できなかった様々な地球の力や秘密、世界を少しずつ私たちに教えてくれる。そして今まで忘れてた光が人間の心から空までのびていく。

Some of them were angry

At the way the earth was abused
By the men who learned
How to forge her beauty into power

《仲間が、地球を大切にしなかったことに対して怒つた。彼女(地球)の美しさをパワーに変える方法を学んだ男たちに対してだ。》。《パワーに変える》は、地球にあった木々や金属、石油などを、財産や権力の源にするところのことだ。'forge' は、鉄を刀などの形にすること。'men' は男性ではなく、《人類》を意味している。

And they struggled
To protect her from them
Only to be confused
By the magnitude of her fury
In the final hour

《ある人々は、彼女(地球)を彼ら(men)から守ろうと苦労した。しかし彼女(地球)の怒りは頂点に達し、守ろうとした人々も混乱してしまつた。地球の最後の時間だ。》。聖書の中の大洪水や恐竜の時代に火

山が噴火したようになるのだろう。

And when the sand was gone
And the time arrived
In the naked dawn only a few survived

《そして砂時計の砂がなくなつた。黙示録の翌朝、何もない地球の夜明けには、ほんのわずかの人が生き残つていた。》。

And in attempts to understand a
thing So simple and so huge
Believed that they were meant to live
After the deluge

《大洪水の後、生き残つた人たちは、単純で甚大な出来事を理解しようとし、生きるべくして生き残つたと信じていた。ここでジャクソンが歌っている、生きるべくして生き残つたわずかな人々」とは、果たして、選ばれた人々、だったのだろうか。彼らがまた同じような過ちを繰り返すのであれば、再び破滅が襲ってくるだろう。ジャクソンは自戒を込めて、そんな警告を発

しているのではないだろうか。

Now let the music
Keep our spirits high
And let the buildings
Keep our children dry

《さあ、音楽に僕らを元気づけてもらおう。そして建物に、僕らの子供たちを雨から守ってもらおう。》

Let creation reveal it's secrets
By and by, by and by
When the light that's lost within us
Reaches the sky

《天地創造の秘密を解明してやろう。いずれ、いつか。いずれ、いつか。僕らの中で失われた光が空に届くそのときに。》

この曲は今もなお、その意味を失っていない。'Tate For The Sky' が出された74年頃と同じように、若者たちは自然破壊や地球環境の変動について敏感になっている気がするし、そうあってほしいと思う。④